くにべつさっきょくか
国別 作曲家

ドイツ

オーストリア

イタリア

フランス

ロシア

イギリス

スペイン

ハンガリー

ドイツ

ヨハン・ゼバスティアン・バッハ

ドイツ・テューリンゲン州アイゼナハ（アイゼナッハ）出身の J.S.バッハ。アイゼナハ郊外にはリヒャルト・ヴァーグナーのオペラ『タンホイザー』の舞台となったヴァルトブルク城がある。

ルートヴィヒ・ヴァン・ベートーヴェン

神聖ローマ帝国時代におけるボン出身の作曲家ベートーヴェン。生家は二つの大戦をほぼ無傷で切り抜け、当時の建造物のまま「ベートーヴェン・ハウス Beethoven-Haus」として維持管理され、室内楽ホールでは頻繁にコンサートが開催されている。

ヨハネス・ブラームス

J.S.バッハ、ベートーヴェンと共に、ドイツ音楽における「三大 B」と称される 19 世紀ドイツの作曲家ヨハネス・ブラームス（Johannes Brahms/1833-1897）。出身地のドイツ北部ハンブルクには名門のオペラハウス（ハンブルク国立歌劇場）がある。

フェリックス・メンデルスゾーン

ドイツロマン派の作曲家フェリックス・メンデルスゾーン（Felix Mendelssohn/1809-1847）。出身はブラームスと同じハンブルク。幼少期から音楽の神童として活躍し、20 歳の時に「マタイ受難曲」の公開演奏をバッハの死後初めて行った。

リヒャルト・ワーグナー

ロマン派オペラを極めた 19 世紀のドイツの作曲家リヒャルト・ワーグナー（Wilhelm Richard Wagner/1813-1883）。ドイツ東部ライプツィヒ出身。フランツ・リストらとともに新ドイツ派と呼ばれ、絶対音楽にこだわるブラームス派と対立した。

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

ドイツ生まれでイギリスに帰化したバロック期の作曲家ヘンデル（Georg Friedrich Händel/1685-1759）。イギリスではハンデル（ハンドル、ヘンドル）と呼ばれる。

J.S.バッハとは同い年だが接点はなかったようだ。出身地のザクセン＝アンハルト州ハレ（ザーレ）ではヘンデル音楽祭が開催されている。

ロベルト・シューマン

19 世紀ドイツ・ロマン派を代表する作曲家ロベルト・シューマン（Robert Alexander Schumann/1810-1856）。クララとの結婚までの 6 年間に作曲された『子供の情景』、『クライスレリアーナ』、『幻想曲』などのピアノ曲には、クララへの思いが喜びや希望や苦痛や悲嘆の形で込められているという。

リヒャルト・シュトラウス

ドイツの後期ロマン派を代表する作曲家リヒャルト・シュトラウス（Richard Georg Strauss/1864-1949）。親交のあったマーラーと同じく指揮者としても活躍。代表曲は、交響詩『ツァラトゥストラはこう語った』、『ドン・ファン』、『アルプス交響曲』など。

カール・マリア・フォン・ウェーバー

ドイツのロマン派初期の作曲家ウェーバー（Carl Maria von Weber/1786-1826）。モーツァルトによるドイツオペラの伝統を継承し、『魔弾の射手』によってドイツ・ロマン派のオペラ様式を完成させた。モーツァルトの妻コンスタンツェは父方の従姉。

レオン・イェッセル

日本テレビ系「キユーピー3 分クッキング」テーマ曲『おもちゃの兵隊の行進（観兵式）Parade der Zinnsoldaten』作曲者として知られる。

ハインリッヒ・ヴェルナー

19 世紀ドイツの作曲家。ゲーテの詩に基づく歌曲『野ばら Heidenröslein』が有名（1829 年初演）。ちなみにシューベルト『野ばら』は 1815 年出版。

ジャック・オッフェンバック

ドイツ生まれでフランスに帰化した作曲家（本名はヤコプ・レヴィ・エベルスト）。パリの劇場主として作曲したオペレッタ『地獄のオルフェ』が大ヒット。同曲はフレンチ・カンカンのテーマ曲としても定着した。

カール・オルフ

舞台形式によるカンタータ「カルミナ・ブラーナ」冒頭の合唱『おお、運命の女神よ O Fortuna』が有名。テレビ番組・CMでよく使われる。

フリードリヒ・ジルヒャー

ドイツ歌曲『ローレライ』の作曲家として有名

ヘルマン・ネッケ

代表曲『クシコス・ポスト Csikos Post』は日本の運動会でも使われる

ヨハン・ブルグミュラー

ピアノ入門者・初学者向けの教則本「25 の練習曲」が特に有名。弟のノルベルト・ブルグミュラーはメンデルスゾーンの親友。

ヨハン・パッヘルベル

バロック期ドイツの作曲家ヨハン・パッヘルベル（Johann Pachelbel/1653-1706）。1680 年頃に作曲したカノン様式の作品「3 つのヴァイオリンと通奏低音のためのカノンとジーグ ニ長調」第 1 曲は「パッヘルベルのカノン」として広く親しまれている。

エンゲルベルト・フンパーディンク

メルヘンオペラ『ヘンゼルとグレーテル』で有名。リヒャルト・ワーグナーと親交があった。

グスタフ・ランゲ

19 世紀ドイツの作曲家・ピアニスト。代表曲は『エーデルワイス Edelweiß』、『花の歌 Blumenlied』、『荒野のバラ Heidenröslein』。

オーストリア

ヴォルフガング・アマデウス・モーツァルト

ハイドン、ベートーヴェンと並ぶウィーン古典派三大巨匠の一人モーツァルト(Wolfgang Amadeus Mozart/1756-1791)オーストリア・ザルツブルク出身。毎年夏にはザルツブルク音楽祭が開催される。

フランツ・シューベルト

『魔王』、『野ばら』、『菩提樹』、『アヴェ・マリア』など数多くの歌曲を残し「歌曲王」と称えられるオーストリアの作曲家シューベルト(Franz Peter Schubert/1797-1828)。ウィーン郊外のリヒテンタール出身。

フランツ・ヨーゼフ・ハイドン

「交響曲の父」、「弦楽四重奏曲の父」と称賛されるオーストリアの作曲家フランツ・ヨーゼフ・ハイドン(Franz Joseph Haydn/1732-1809)。オーストリア帝国の皇帝讃歌『神よ、皇帝フランツを守り給え』はドイツ国歌の原曲。

ヨハン・シュトラウス２世

「ウィーンのワルツ王」と称えられたオーストリアの作曲家ヨハン・シュトラウス２世（Johann Strauss II/1825-1899）。ウィーンフィル・ニューイヤーコンサートではシュトラウス・ファミリーの楽曲が演奏され、アンコール曲として『美しく青きドナウ』、最後に『ラデツキー行進曲』（ヨハン・シュトラウス１世）がお約束となっている。

ヨーゼフ・ランナー

ウィンナ・ワルツの父とも言うべきオーストリアの音楽家ヨーゼフ・ランナー（Joseph Lanner/1801-1843）。シュトラウス一族でないが、ウィーンフィル・ニューイヤーコンサートで頻繁に作品が取り上げられる。

グスタフ・マーラー

オーストリアのウィーンで活躍した作曲家グスタフ・マーラー（Gustav Mahler/1860-1911）。交響曲や歌曲で知られるほか、指揮者としても高く評価された。トーマス・マンの小説「ヴェニスに死す」主人公はマーラーから発想を得ているという。

アントン・ブルックナー

交響曲や合唱曲、宗教音楽を手がけたオーストリアの作曲家ブルックナー（Josef Anton Bruckner/1824-1896）。ブルックナーの交響曲は欧米で人気が高く演奏機会が多い。グスタフ・マーラーと交流があった。

フランツ・フォン・スッペ

オペレッタ「軽騎兵」、「詩人と農夫」の序曲が有名

フランツ・レハール

代表曲はオペレッタ『メリー・ウィドウ』、ワルツ『金と銀』

カール・ツェルニー

ピアノ初学者向けの練習曲集で知られる。ネコをたくさん飼っていたという。

レオン・ミンクス

バレエ音楽『ドン・キホーテ』、『ラ・バヤデール』、「パキータ』が有名。ロシアで活躍した。アドルフ・アダンのバレエ音楽『ジゼル』改作でも知られる。

ヨゼフ・ワーグナー

「オーストリアのマーチ王」と称えられたオーストリアの軍楽隊長ヨゼフ・ワーグナー（Josef Franz Wagner/1856-1908 年）。行進曲『双頭の鷲の旗の下に Unter dem Doppeladler』が有名。

フリッツ・クライスラー

『愛の喜び』や『愛の悲しみ』などで知られるオーストリア出身のヴァイオリニスト、フリッツ・クライスラー（Fritz Kreisler/1875-1962）。バロック期の作曲家の名前を借りた偽作で有名。

イタリア

アントニオ・ヴィヴァルディ

ヴァイオリン協奏曲集「四季」が有名なバロック後期イタリアの作曲家アントニオ・ヴィヴァルディ（Antonio Lucio Vivaldi/1678-1741）。作曲した協奏曲は 500 を超える多作家で、オペラ作曲家としても評価されていた。

ジュゼッペ・ヴェルディ

19 世紀イタリアにおけるロマン派音楽の作曲家ジュゼッペ・ヴェルディ(Giuseppe Verdi/1813-1901)。『アイーダ』、『ナブッコ』、『リゴレット』、『椿姫』などのオペラ作品で知られるほか、カトリックのミサ曲『レクイエム』も有名。

ジャコモ・プッチーニ

代表作『トスカ』、『蝶々夫人』、『ラ・ボエーム』などのオペラが有名なイタリアの作曲家ジャコモ・プッチーニ(Giacomo Puccini/1858-1924)。同時代の音楽家や批評家からは賛否両論だったようだが、親しみやすい作風で今日でも演奏機会が多い。

オットリーノ・レスピーギ

ヴァイオリンやヴィオラ奏者として活動していたレスピーギは 30 歳を過ぎた頃から作曲にも取り組み、『ローマの噴水』、『ローマの松』、『ローマの祭り』と続く一連の交響詩「ローマ三部作」を世に送り出した。

ジョアキーノ・ロッシーニ

『ウィリアム・テル』、『セビリアの理髪師』といったオペラ作品が有名なイタリアの作曲家ジョアキーノ・ロッシーニ(Gioachino Antonio Rossini/1792-1868)。美食家としても知られ、音楽界からの引退後は料理研究や高級レストラン経営に尽力した。「ロッシーニ風」という料理法にその名を残している。

アントニオ・サリエリ

ベートーヴェン、シューベルト、リストらを育てたイタリアの作曲家アントニオ・サリエリ(Antonio Salieri/1750-1825)。映画『アマデウス』主人公として取り上げられ注目を集めた。

ニコロ・パガニーニ

ヴァイオリンの超絶技巧で名高いイタリアの作曲家ニコロ・パガニーニ(Niccolò Paganini/1782-1840)。技術を盗まれたくないため、生前は楽譜を一切公開しなかった

という。更には死の直前にほとんどの楽譜が焼却処分され、残りの楽譜も遺族によって売却されてしまった。今日では『24の奇想曲』が有名。

ムツィオ・クレメンティ

ピアノ初学者の練習用教材『ソナチネアルバム』が有名なイタリアの作曲家・ピアニスト、ムツィオ・クレメンティ(Muzio Clementi/1752-1832)。ピアノ曲に関してはモーツァルトの作品よりもクレメンティの方がピアニスティックで素晴らしい、とベートーヴェンから評価された。

アルカンジェロ・コレッリ

トリオ・ソナタ、ヴァイオリン・ソナタや協奏曲を得意としたイタリアの作曲家アルカンジェロ・コレッリ(Arcangelo Corelli/1653-1713)。現代では『クリスマス協奏曲』が比較的知名度が高い。

ルイジ・ボッケリーニ

ハイドン、モーツァルトと同時代にチェロ演奏家として活躍したイタリアの作曲家ルイジ・ボッケリーニ(Luigi Rodolfo Boccherini/1743-1805)。弦楽五重奏曲ホ長調第3楽章は「ボッケリーニのメヌエット」として有名。

ピエトロ・マスカーニ

1890年初演のオペラ『カヴァレリア・ルスティカーナ』間奏曲が特に有名。プッチーニの友人。

クラウディオ・モンテヴェルディ

後期ルネサンスに活躍したイタリアの作曲家クラウディオ・モンテヴェルディ(Claudio Monteverdi/1567-1643)。マドリガーレ集やオペラを作曲した。

トマゾ・アルビノーニ

バロック期イタリアの作曲家トマゾ・アルビノーニ(Tomaso Giovanni Albinoni/1671-1751)。かつて『アルビノーニのアダージョ』原曲の作曲者とされていたが、同曲は音楽学者レモ・ジャゾットの完全な創作と判明している。

ニーノ・ロータ

映画「ゴッドファーザー」の『愛のテーマ』でアカデミー作曲賞を受賞したイタリアの作曲家ニーノ・ロータ(Nino Rota/1911-1979)。本人は「本業はあくまでクラシックの作曲であり、映画音楽は趣味にすぎない」とコメントしているそうだ。

エンニオ・モリコーネ

映画「荒野の用心棒」、「夕陽のガンマン」、「アンタッチャブル」、「ニュー・シネマ・パラダイス」などの映画音楽が有名

フランス

モーリス・ラヴェル

代表曲『スペイン狂詩曲』、『ダフニスとクロエ』、『ボレロ』などで知られるフランスの作曲家モーリス・ラヴェル(Joseph-Maurice Ravel/1875-1937)。卓越した管弦楽法は「オーケストレーションの天才」「管弦楽の魔術師」と称賛された。

クロード・ドビュッシー

『月の光(ベルガマスク組曲)』、『2つのアラベスク』、『子供の領分』などの代表曲で知られるフランスの作曲家クロード・ドビュッシー(Claude Achille Debussy/1862-1918)。特徴的な作曲技法から「印象主義音楽(印象派)」と称される。ユーロ導入前の20フラン紙幣にその肖像が描かれている。

エリック・サティ

「音楽界の異端児」「音楽界の変わり者」と称され、西洋音楽に大きな影響を与えたフランスの作曲家エリック・サティ(Erik Alfred Leslie Satie/1866-1925)。パリ音楽院在学中にピアノ小品『ジムノペディ』『グノシエンヌ』などを発表した。ジャン・コクトーやピカソと交流し、ドビュッシーと親交を結んだ。

カミーユ・サン＝サーンス

マドレーヌ教会のオルガニストとして活躍。フランク、フォーレらとともに国民音楽協会を設立した。代表曲は『サムソンとデリラ』、組曲『動物の謝肉祭』、交響曲第3番ハ短調「オルガン付き」など。

ジョルジュ・ビゼー

19世紀フランスの作曲家ジョルジュ・ビゼー(Georges Bizet/1838-1875)は9歳でパリ音楽院に入学し、卓越した記憶力とピアニストとしての才能でフランツ・リストを驚かせた。作曲の中心はオペラなどの劇音楽で、『カルメン』、『アルルの女』、『真珠採り』、『美しきパースの娘』などの作品を残した。

ガブリエル・フォーレ

ガブリエル・フォーレ(Gabriel Urbain Fauré/1845-1924)は、『レクイエム』、『月の光』などで知られるフランスの作曲家。サン＝サーンスにピアノと作曲を師事し、パリのマドレーヌ教会でオルガニストとして活躍した。フランス国立音楽学校の作曲家教授としてモーリス・ラヴェルを指導した。

エクトル・ベルリオーズ

『幻想交響曲』、『ローマの謝肉祭』、『ファウストの劫罰』(ハンガリー行進曲を含む)などが有名なフランスにおけるロマン派音楽の作曲家ベルリオーズ(Louis Hector Berlioz/1803-1869)。指揮者としても活躍していた。かつてフランス10フラン紙幣の肖像画に採用された。

ジャック・オッフェンバック

ドイツ生まれでフランスに帰化した作曲家（本名はヤコプ・レヴィ・エベルスト）。パリの劇場主として作曲したオペレッタ『地獄のオルフェ』が大ヒット。同曲はフレンチ・カンカンのテーマ曲としても定着した。

シャルル・グノー

オペラ『ファウスト』、『アヴェ・マリア』で知られる19世紀フランスの作曲家グノー（Charles François Gounod/1818-1893）。管弦楽曲『操り人形の葬送行進曲』は、ヒッチコックのテーマ曲として有名。

ポール・デュカス

クロード・ドビュッシーと親交のあったフランスの作曲家ポール・デュカス（Paul Abraham Dukas/1865-1935）。音楽評論家としても活動した。代表曲は交響的スケルツォ『魔法使いの弟子』。

アドルフ・アダン

バレエ音楽『ジゼル』で知られるフランスの作曲家アドルフ・アダン（Adolphe-Charles Adam/1803-1856）。クリスマスキャロル『さやかに星はきらめき O holy night』も有名。

レオ・ドリーブ

「フランス・バレエ音楽の父」と称賛されるロマン派の作曲家レオ・ドリーブ（Clément Philibert Léo Delibes/1836-1891）。パリ国立音楽院でアドルフ・アダンに師事し作曲を学んだ。バレエ代表曲は『コッペリア』、『シルヴィア』など。

エルネスト・ショーソン

代表曲『交響曲　変ロ長調』は日本の童謡『ぞうさん』の元ネタか？

ジュール・マスネ

『マノン』、『ウェルテル』、『タイス』などのオペラ作品で有名。普仏戦争に兵士として従軍した。『タイスの瞑想曲』はヴァイオリン独奏曲としても人気がある。

ジャン・ポール・マルティーニ

ドイツ出身のフランスの作曲家。代表曲はフランス歌曲『愛の喜び Plaisir d'Amour』。

ポール・モーリア

イージーリスニング界の第一人者として活躍したフランスの作曲家ポール・モーリア(Paul Mauriat/1925-2006)。親日家として知られ日本でも人気が高い。代表曲は、『恋はみずいろ』、『オリーブの首飾り』、『蒼いノクターン』、『エーゲ海の真珠』、『涙のトッカータ』など。

ロシア

ピョートル・チャイコフスキー

ロシア・ウラル地方ヴォトキンスク出身の作曲家チャイコフスキー(Pyotr Ilyich Tchaikovsky/1840-1893)。バレエ音楽『白鳥の湖』、『眠れる森の美女』 、『くるみ割り人形』、『ピアノ協奏曲第 1 番』、大序曲『1812 年』などが有名。

セルゲイ・ラフマニノフ

ロシアのロマン派音楽を代表する作曲家の一人ラフマニノフ(Sergei Rachmaninoff/1873–1943)。代表曲『ピアノ協奏曲第 2 番ハ短調』は映画で使われたほか、フィギュアスケートのプログラム曲としても度々用いられる。

ニコライ・リムスキー＝コルサコフ

ロシア民謡・文学を題材にした作品を数多く残したロシアの作曲家コルサコフ（Rimsky-Korsakov/1844-1908）。音楽教師として高い評価を受けており、二人の高弟グラズノフとストラヴィンスキーのほか、リャードフ、アレンスキー、プロコフィエフなどを輩出した。

アレクサンドル・ボロディン

ボロディン（Alexander Borodin/1833–1887）はロシアのクラシック音楽作曲家としても有名だが、サンクトペテルブルク大学医学部卒で有機化学の研究家としても多大な業績を残している。未完に終わった歌劇『イーゴリ公』より『だったん人の踊り』が今日最も有名。

モデスト・ムソルグスキー

自国の歴史や文化を題材としたオペラや歌曲を残したロシアの作曲家ムソルグスキー（Modest Mussorgsky/1839-1881）。
代表曲は、交響詩『禿山の一夜』、組曲『展覧会の絵』。これらの曲は、映画やテレビの BGM に転用されたほか、プログレッシブ・ロックやフュージョンなど他の音楽分野にも影響を与えている。

アラム・ハチャトゥリアン

プロコフィエフ、ショスタコーヴィチと共にソヴィエト 3 巨匠と称されたソ連の作曲家ハチャトゥリアン（Aram Khachaturian/1903–1978）。

ソチの南側に位置するグルジア出身で、アルメニアやグルジアなどカフカス地方の民族音楽の影響を受けた民族的要素の強い鮮烈な印象の作品が多い。

- 仮面舞踏会
- 剣の舞（バレエ組曲『ガイーヌ』より）

アレクサンドル・スクリャービン

モスクワ音楽院においてラフマニノフと同級生だったロシアの作曲家スクリャービン（Alexander Scriabin/1872-1915）。卓越したピアニストとして、数多くのピアノソナタや前奏曲、練習曲、ピアノ小品を残した。

代表作は、交響曲第 4 番作品 54「法悦の詩」、交響曲第 5 番作品 60「プロメテウス － 火の詩」、ピアノソナタ「黒ミサ」、「白ミサ」など。

イーゴリ・ストラヴィンスキー

指揮者やピアニストとしても活躍したロシアの作曲家ストラヴィンスキー（Igor Stravinsky/1882–1971）。三大バレエ音楽として知られる『火の鳥 L'Oiseau de feu』、『ペトルーシュカ Petrushka』、『春の祭典 Le sacre du printemps』が特に有名。

セルゲイ・プロコフィエフ

サンクトペテルブルク音楽院で作曲・ピアノを学んだロシアの作曲家プロコフィエフ（Sergei Sergeevich Prokofiev/1891-1953）。ロシア革命を逃れ海外を転々とし、日本にも滞在した。

有名な曲としては、『ピーターと狼』作品 67、バレエ音楽『ロメオとジュリエット』作品 64、『シンデレラ』作品 87 などがある。

ドミートリイ・ショスタコーヴィチ

世界的な交響曲の大家として名高いロシアの作曲家ショスタコーヴィチ（Dmitri Shostakovich/1906–1975）。代表曲は、交響曲第 5 番、第 7 番、第 10 番、弦楽四重奏曲第 8 番、第 15 番など。

イギリス

エドワード・エルガー

イギリスを代表する作曲家エドワード・エルガー（Sir Edward William Elgar/1857-1934）。『威風堂々』、『エニグマ変奏曲』などの代表曲で知られ、数多くの称号や勲章を授

与されている。イギリス国内にはエルガーにちなんで命名された通りが 60 以上あるという。

グスターヴ・ホルスト

組曲『惑星』で有名なイングランドの作曲家グスターヴ・ホルスト(Gustav Holst/1874-1934)。レイフ・ヴォーン・ウィリアムズとはロンドン王立音楽大学の頃からの親友(二人は同じグロスタシャー州出身)。

ゲオルク・フリードリヒ・ヘンデル

ドイツ生まれでイギリスに帰化したバロック期の作曲家ヘンデル(Georg Friedrich Händel/1685-1759)。英語名ではハンデル(ハンドル、ヘンドル)。

代表曲は、『ハレルヤ・コーラス』が有名なオラトリオ『メサイア』、運動会の表彰式 BGM で使われる『見よ、勇者は帰る』、『オンブラ・マイ・フ(懐かしい木陰よ)』、『私を泣かせてください』、『水上の音楽』など。

トマス・アーン

イギリス愛国歌『ルール・ブリタニア Rule, Britannia!』で有名なバロック期イングランドの作曲家トマス・アーン(Thomas Augustine Arne/1710–1778)。
トマス・アーンは 1745 年にイギリス国歌『神よ国王を護り賜え』を編曲。同曲はドルリー・レーン王立劇場(Theatre Royal, Drury Lane)演奏され、以後イギリスの事実上の国歌として定着している。

ヘンリー・パーセル

バロック期イングランドの作曲家ヘンリー・パーセル(Henry Purcell/1659 1695)は、イタリアやフランスの影響を受けつつ独自の音楽を生み出した。

代表作は、オペラ『ディドとエネアス Dido and Aeneas』、劇付随音楽『アブデラザール、またはムーア人の復讐』など。20 世紀に入ってベンジャミン・ブリテンがパーセルの作品をいくつか編曲している。

ジョン・フィールド

アイルランドの作曲家・ピアニストであるジョン・フィールド(John Field/1782-1837)は夜想曲の発展に貢献し、後のショパンに影響を与えた。ロシアで活躍し、ミハイル・グリンカを指導するなどロシア音楽の発展に大きく寄与した。

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ

レイフ・ヴォーン・ウィリアムズ(Ralph Vaughan Williams/1872-1958)は、ロンドン王立音楽大学で学んだイングランドの作曲家。伝統的なイギリス民謡や教会音楽の収集・編纂に尽力した。ホルストは学生時代の親友。
代表曲は、『グリーンスリーヴスによる幻想曲』原曲、吹奏楽曲『イギリス民謡組曲』、行進曲『海の歌』、『バス・テューバと管弦楽のための協奏曲』など。

ベンジャミン・ブリテン

20 世紀イギリスの作曲家ベンジャミン・ブリテン(Edward Benjamin Britten/1913-1976)は、『ピーター・グライムズ』、『シンプル・シンフォニー』、『戦争レクイエム』などの代表作で知られる。

特に 1945 年初演のオペラ『ピーター・グライムズ』は大成功を収め、パーセル以来の本格的なイギリス・オペラの再興と賞賛された。

アンドルー・ロイド・ウェバー

『オペラ座の怪人』、『キャッツ』、『エビータ』などのミュージカル作品で知られるイングランドの作曲家アンドルー(アンドリュー)・ロイド・ウェバー(Andrew Lloyd Webber/1948-)。ソプラノ歌手サラ・ブライトマンの元夫。

スペイン

イサーク・アルベニス

スペイン北東部カタルーニャ生まれの作曲家イサーク・アルベニス(Isaac Albéniz/1860-1909)。ピアノ組曲「エスパーニャ」、組曲「イベリア」、「スペインの歌」、「スペイン組曲」など、祖国スペインを題材としたピアノ組曲を残した。

エンリケ・グラナドス

スペイン近代音楽の作曲家・ピアニスト、エンリケ・グラナドス(Enrique Granados y Campiña/1867-1916)。イサーク・アルベニスとともにスペイン国民楽派の双璧をなす。パブロ・カザルスと親交があった。代表曲は『スペイン舞曲集』、『ゴイェスカス』。

ナルシソ・イエペス

映画「禁じられた遊び」のメインテーマ曲『愛のロマンス』で世界的に有名なスペインの作曲家・ギタリスト、ナルシソ・イエペス(Narciso Yepes/1927-1997)。日本には1960年から1996年までの間に計17回訪問している。

パブロ・カザルス

スペイン・カタルーニャ出身のチェロ演奏家・作曲家パブロ・カザルス(Pablo Casals/1876-1973)。チェロの近代的奏法を確立し20世紀最大のチェリストと称賛された。カタルーニャ民謡『鳥の歌』、J.S.バッハ『無伴奏チェロ組曲』などの演奏で有名。

パブロ・デ・サラサーテ

『ツィゴイネルワイゼン』で知られるスペイン・パンプローナ出身の作曲家・ヴァイオリン奏者パブロ・デ・サラサーテ(Pablo de Sarasate/1844-1908)。パリ音楽院で学び、サン=サーンスと親交を深めた。ドイツの作曲家ブルッフの代表曲『スコットランド幻想曲』を初演し、同曲を献呈されている。

フランシスコ・タレガ

『アルハンブラの思い出』で知られるスペインの作曲家・ギター奏者フランシスコ・タレガ(Francisco Tárrega/1852-1909)。ギターの達人ヴィルトゥオーソとして名を馳せ、「ギターのサラサーテ」との異名も。ミゲル・リョベートを指導した。

マヌエル・デ・ファリャ

『火祭りの踊り』が有名なスペインの作曲家。マヌエル・デ・ファリャ(Manuel de Falla y Matheu/1876-1946)。パリ滞在時にフランスの作曲家ポール・デュカスに才能を認められ、アルベニス、ラヴェルへと人脈を築き、ドビュッシーとも親交を結んだ。

ミゲル・リョベート

スペイン民謡『アメリアの遺言』編曲・演奏が有名なスペイン・カタルーニャのギタリスト・作曲家ミゲル・リョベート(Miguel Llobet/1878-1938)。バルセロナ市立音楽学校にてタレガに師事。20 世紀におけるクラシック・ギター音楽復興に貢献した。後にアンドレス・セゴビアを指導したとされる。

ホアキン・ロドリーゴ

代表曲『アランフエス協奏曲』で知られるスペインの作曲家・ピアニスト、ホアキン・ロドリーゴ(Joaquín Rodrigo Vidre/1901-1999)。パリのエコール・ノルマル音楽院でポール・デュカスに作曲を師事。スペイン国王ファン・カルロスより貴族に列せられ、「アランフエス庭園侯」の爵位を授かった。

ハンガリー

フランツ・リスト

ハンガリー出身のフランツ・リスト(Franz Liszt/1811-1886)だが、生涯ハンガリー語を習得することはなく、ドイツロマン派の中に位置づけらている。

フランツ・レハール

『メリー・ウィドウ』、ワルツ『金と銀』などで知られるハンガリーの作曲家フランツ・レハール(Franz Lehár/1870-1948)。プラハ音楽院でドヴォルザークらに学び、軍楽隊長を経てウィーンでオペレッタ作曲家としてデビューした。

コダーイ・ゾルターン

ハンガリーの作曲家コダーイ・ゾルターン(Kodály Zoltán/1882-1967)は、ハンガリー民謡を研究する民族音楽学者としても活躍した。代表曲は『ハンガリー民謡「孔雀は飛んだ」による変奏曲』、管弦楽組曲『ハーリ・ヤーノシュ』など。

バルトーク・ベーラ

バルトーク・ベーラ(Bartók Béla Viktor János/1881-1945)ハンガリーの作曲家。民俗音楽学の研究者としても精力的に活動した。フランツ・リストの弟子トマーン・イシュトバーンから教えを受けている。代表曲は『ルーマニア民俗舞曲』、『弦楽器と打楽器とチェレスタのための音楽』など。

ロビー・ラカトシュ

ハンガリーの男性ヴァイオリニスト・作曲家ロビー・ラカトシュ(Roby Lakatos/1965-)。ハンガリーに古くから伝わるロマ(ジプシー)音楽をベースとし、ジャズやクラシックの要素も取り入れた独特の音楽スタイルで、超絶技巧のヴァイオリニストとして知られる。